

# 日本語

## プログラム

- 13:30-13:35 開会挨拶 山田 興一 (LCS 副センター長)  
13:35-13:45 趣旨説明 松橋 隆治 (LCS 研究統括/東京大学教授)

### 第 1 部：英国の取組と課題

- 13:45-14:15 グリーンディール政策のこれまでの動向  
アラン・クリフォード 氏  
(英国エネルギー気候変動省 グリーンディールサプライチェーンチーム 上席政策アドバイザー)
- 14:15-14:25 質疑応答
- 14:25-14:55 英国グリーンディール政策や他のエネルギー効率化枠組みの運営経験について  
ジョナサン・ハーレー 氏  
(ジェムサーヴ経営コンサルティング 首席コンサルタント  
グリーンディール管理・登録機構 運営ヘッド)
- 14:55-15:15 質疑応答  
(休憩：10 分間)

### 第 2 部：日本の取組と課題

- ご挨拶 外村 正一郎 (JST 理事)
- 15:25-15:40 省エネルギー政策と J クレジット  
森川 純 氏  
(経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 環境経済室 環境調和産業推進室 課長補佐)
- 15:40-15:55 地球温暖化対策の取り組みについて ー低炭素ライフスタイルに向けてー  
増田 大美 氏  
(環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 課長補佐)
- 15:55-16:10 住宅・建築物の省エネルギー施策について  
宮森 剛 氏  
(国土交通省 住宅局 住宅生産課 課長補佐)
- 16:10-16:35 質疑応答・議論

### 第 3 部：日本版グリーンディールの展望

- 16:35-17:05 日本における家庭の省エネ政策パッケージの提案  
松橋 隆治 (LCS 研究統括/東京大学教授)
- 17:05-17:30 意見交換

## 開会挨拶・趣旨説明

高瀬：本日はご多忙の中、ご来場頂きありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます、科学技術振興機構 低炭素社会戦略センターの高瀬と申します。どうぞよろしくお願い致します。

本ワークショップは、科学技術振興機構 低炭素社会戦略センターと東京大学 COI-S が主催し、駐日英国大使館、文部科学省から後援を頂いています。

またスピーカーとしてイギリスのエネルギー気候変動省、グリーンディール管理・登録機構からお二方、そして経済産業省、環境省、国土交通省からもご参加を頂いています。

## 開会挨拶

### 山田 興一 (LCS 副センター長)

山田：皆様こんにちは。英語で簡単なご挨拶をさせていただきます。

本日は「くらしからの省エネを進める政策デザイン研究国際ワークショップ」へのご参加、誠にありがとうございます。省エネルギーシステムは、経済メリットがあるにもかかわらず、理論的には行うのは易しいはずですが、現実的にはそうではありません。実装しようとする、日々のくらしの中でもなかなか難しいものがあります。

本日のワークショップでは、イギリスからクリフォードさんとハーレーさんにお越し頂き、イギリスのグリーンディール政策についてご説明頂きます。また、理論的な部分と現実問題との間のひずみについてもお話し頂く予定です。実りのある議論が進むことを願っております。

皆様方には、グリーンディール政策のご理解を深めて頂きたいと共に、遠路はるばるお越し下さったお 2 人に御礼を申し上げます。本日のワークショップが実り多い成果を生み、今後、日本でも加速度的にグリーンディール政策が行えるように、更には皆様方からご提案を受け、そしてまたそれを改善していくアドバイスなども受けられればと思います。

高瀬：山田副センター長、ありがとうございました。

続きまして、本ワークショップの開催趣旨を科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター研究統括、そして東京大学工学部教授の松橋隆治よりご説明させていただきます。

## 趣旨説明

### 松橋 隆治 (LCS 研究統括/東京大学教授)

松橋：皆様、今日はお忙しいところをお運び頂きまして、誠にありがとうございます。私は、日本語で 2 点、ご説明させていただきます。

まず、このワークショップを開催するにあたり、先ほど山田副センター長からもお話がありましたが、英

国エネルギー気候変動省のアラン・クリフォードさんとグリーンディール管理・登録機構の責任者であるジョナサン・ハーレーさんにはるるイギリスから来て頂きました。ここに感謝申し上げたいと思います。

実は私どもは、科学技術振興機構 低炭素社会戦略センターとして、昨年ロンドンを訪ねました。英国エネルギー気候変動省を訪ね、アラン・クリフォードさんにグリーンディールに関するお話を頂き、その後、ジョナサン・ハーレーさんからも実際のグリーンディールの運用についてお話をうかがいました。こちらにいる高瀬研究員が中心となって、その時の話をまとめ、これから日本のいろいろな事情を勘案して日本に合ったグリーンディールのファイナンスの仕組みを制度設計していこうと我々は考えています。それをこのような1冊の政策提案のペーパーという形にまとめさせて頂きました<sup>1</sup>。

私ども、低炭素社会戦略センターでは、アカデミックな論文もちろん書くのですが、それだけではなく、国家全体の意思決定に役立っていこうということで、このような形の政策提案のペーパーというのを次々と著し、それを関係省庁、あるいは関係機関のキーパーソンの皆様にお送りしています。

グリーンディール制度はイギリスが世界に先駆けて始めたものですが、先ほど申し上げましたように、私どもはこれに大変注目しています。と申しますのは、省エネとか低炭素を、経済をきちんと維持しながら進めていくということに関して、このグリーンディール制度というものが非常に重要であり、鍵になる制度だと思っているからです。そこで我々は、イギリスを訪ねて、世界で初めてこの制度を施行したイギリスの制度の有り様をまずいろいろと学んできたわけです。その際、アラン・クリフォードさんとジョナサン・ハーレーさんには、大変丁寧に、親切にいろいろと教えて頂きました。どうもありがとうございました。

私たちは、これから日本の中で良い省エネ推進のための制度を作っていきたい。そのためにはイギリスと同じ事情もありますが、イギリスと異なるいろいろな事情もあります。例えば、住宅事情1つをとってみても、イギリスと日本ではかなり違ってきます。そこで、日本に固有の事情というものを勘案して、どのようにすれば日本に適切な制度を設計していけるのか、ここを皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

今日は、先ほど高瀬の方から話がありましたが、決して非常に多くのお客様がみえているわけではありません。この国際ワークショップは、完全にオープンにして、どうぞ来たい方は誰でも来て下さい、という形でご案内を差し上げたわけではありません。しかしながら、ここにおられる方々は、日本の中で制度設計をする、あるいは社会にその制度を根付かせていく、そういう中であってはキーパーソンの皆様、力のある皆様であると私どもは考えています。これからそういったキーパーソンの皆様と一緒にこの制度について考えていきたいと思っています。

第2部においては、経済産業省、環境省、国土交通省の行政官の方からそれぞれご講演を頂きます。これも私どもとしては、考えているところがありまして、こういう制度をこれから日本の中で根付かせていくには、やはり省庁横断で、オールジャパンの枠組みの中で考えていくことが、とても大事だろうと思っているわけです。従って、この制度に関係すると思われる3つの省から人をお招きし、私ども大学や、科学技術振興機構の大もとになっている文部科学省からも来て頂いて、省庁横断型でこの制度設計というものを考えていこうと思っています。

このように本格的なグリーンディールに関する国際ワークショップというのは、恐らく日本の中では初めてであろうと考えています。これを機会に、行政の方、民間の方、大学、そして産業界の方、皆でこの制度

---

<sup>1</sup> 政策提案書については、<http://www.jst.go.jp/lcs/documents/publishes/item/fy2013-pp-08.pdf> を参照されたい。

をどのように作っていけばいいか、是非忌憚の無いご意見を頂いて、良い制度を設計していきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は誠にありがとうございました。

高瀬：ありがとうございました。引き続き、第1部として英国からいらしたお2人のお話に移らせて頂きます。